

東京都市大学校友会 川崎支部便り (お花見)

川崎支部長 赤津 武雄 (S40 電気)

川崎支部活動として恒例のお花見が、2018年3月24日(土)に川崎市津田山霊園内緑ヶ丘公園(噴水広場)で無事開催されましたことをご報告します。お花見は812年に嵯峨天皇が始められた行事で、約1200年も脈々と受け継がれています。今回は湘南支部からも参加して頂き、笑いが絶えない芸達者なお花見となりました。

最初は熱い紅茶で体を温め(ポットを準備)てから、岸野副支部長の指導で臨時邦楽舞台となり、小鼓、篠笛(しのぶえ)、鉦(かね)での合奏となりました。小鼓を肩甲骨に当てて構え、右手の第三関節と掌の接点を小鼓の下部を当てて、その反動で指が小鼓の前面に当たって音が出ます。自分で小鼓を体験をすると、指先に力を入れない様に注意しても、力が入り音が出ません。簡単に見えますが、難しいものです。次は、全員で篠笛で「さくらさくら」の合唱をしましたが、譜面には234等の数字と四五六等の和数字からなっています。和数字は半音下げて弱く吹くのです。今回は、女子グループから素晴らしい和音が流れました。隣では、ブルーシートを敷いた家族連れや花見客が足を止めて熱心に聞き入っていました。この20代から70代までの一体化した雰囲気は、川崎支部ならではの特徴です。(シートの前に空き缶を置けば良かった!?)

セッションの後はお待ちかねの「お花見限定特製二段重ねのお弁当」やお花見リーダーの地元からの青森りんごを頂き、淡い桃色の花びらが幾重にも重なり、独特の甘い蜜の香りと共に堪能しました。

ここ津田山霊園に踏み込むと石碑が目に入ります。作延城址跡です。鎌倉幕府の御家人・稲毛三郎の居壘があったと、新編武蔵国風土記稿に記されています。現在、遺構は全く残っていませんが、高地での城砦が置かれたことが容易に判ります。元龜、天正の時代に後北条氏が物見櫓的なものを建てたのでしよう。

①2018年3月30日(金)には神奈川三支部(横浜支部・川崎支部・湘南支部)の総会の引継ぎ会が有ります。2017年9月30日(土)に川崎支部主催で開催された総会・講演会・合同懇親会の準備項目・運営のノウハウ、その他を引継書と丁寧な説明で、湘南支部へ引き継ぎます。

②毎月HPや校友会オンラインを經由して現代の語り部(川崎支部員)による「川崎便り(定期便)」を配信していますので、ご愛読下さい。忘れられた原風景が鮮やかに蘇ることでしょう。3月は二子玉川周辺でしたが、4月は南武線沿線の話題になります。お楽しみに。

ご意見・ご希望は、川崎支部(窓口)山岸一雄 (k_yamagishi@6kou.co.jp)迄。







